

明日は晴れ三月並の暖かさ
春雪や賽の目に切る豆腐汁
うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ
裏庭に無傷な雪の残りをる
流水に乗る白熊の行方かな
朧夜の餡子舐めれば甘きかな
湯気立てて春田は息を吹き返す
それ以外のどかな春の日なりけり
竜天に登らんとして雷を呼ぶ
ぶらんこを漕ぐや日暮を止むべく
風船を逃せしほどの涙かな
磯遊び太平洋は水びたし
貨幣ともなるべき貝を磯遊び
スーパールの屋上で売る苗木かな
変換は拳式と出でし虚子忌かな
昭和の日ひとつ令和の日の中に
亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ

命名や桜は鯛に花は烏賊に
蝶も来よ鱧を干してひらひらと
草餅を食ひつつ桜餅思ふ
白あればこそその紅白玉椿
雑木の芽つくづく枝の肌かな
山奥に漁師迷へり桃の花
紫木蓮大きな花に細き枝
自転車に乗れて落花の中を行く
行く春を朝寝の床に見送りぬ
連休の誇らしげなる五月かな
初夏や富士は日本一の山
スカートを広げし如く蛸干さる
燕の子庇の上はまだ知らず
掌に泡の石鹼若葉かな
軽雷の遊ぶが如く二度三度
読み進む日盛、炎天、油照
虹の字に曲線のなき不満あり

雹の打つ車の屋根やボンネット
ちびちびと下戸の嗜む梅酒かな
ある時は蚊を叩きをる団扇かな
わくわくの予定きらきらの夏休
夏休の擦傷・切傷・虫刺され
自らの影に入らば涼しかろ
巻貝の大きな口の鮑かな
燻されて鰻屋で食ふ鰻かな
石の中に紅溜めて石榴かな
菜箸の長き直線流れ星
鳴り出せし踏切見ゆる刈田かな
小さき虫顔に当りぬ枯野原
民宿の朝食を待つ炬燵かな
これは熊これは狐よ冬館
おでんの香乗せて回送電車かな
真空を自由落下の布団かな